

編 集 後 記

早いもので編集後記を書くのもこれが3回目になりました。この間、多数の論文を拝見させて頂き、私自身が多くのことを学ばせて頂きました。論文を見たり学会発表を聞かせて頂いたりして感じるのは情報の取捨選択の重要性です。

患者さんからしっかりと病歴を聴取し詳細な所見を取ることが臨床の基本です。とくに神経学の分野では、詳細な所見を取り記載することが求められます。丁寧な観察を行い誰も気付かなかったような僅かな徴候を捉え診断を導き出すのは、神経内科医の醍醐味だと思います。しかし一方で、時間やスペースが限られる学会や論文などで症例報告を行う際には、得られた所見や検査結果を要領よく整理する必要があります。当然一部の情報は省かざるを得なくなります。従って、何を捨て、何を残すかという取捨選択は論文やプレゼンテーション作成における作業の要とも言えます。当然のことですが、何がポイントなのか、特に何が論文や発表のセールスポイントなのかということについて

深い理解がなければ、適切な取捨選択は行えません。

私の研究室では全国から検体をお送り頂き、筋病理診断を初めとする筋疾患診断サービスを提供しています。その際にお送り頂く病歴にも、同様に要領よく整理して記載することが求められます。ところが、電子カルテからプリントアウトされた大量の検査データがそのまま送られて来ることがあります。あと、家系図の記載方法に間違いが多いことに驚かされます。全ての婚姻関係が二重線で結ばれていることはざらですし、◎や回や☒という謎の記号がしばしば使われています。このような日々の情報整理の心がけと正しい用語や記号の使用の習慣があれば、学会発表や論文発表もスムーズに捗るはずですよ。

そしてそのように日々臨床を行う中で発表に値するような症例に出会ったときは、臨床神経学への投稿をお忘れなく！

(西野一三)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 瀧山 嘉久 坪井 義夫 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹

「臨床神経学」	第56巻 第7号	平成28年7月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高 橋 良 輔
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>